

旧約理解を深める必読の名著、待望の本邦初訳！

教会はイザヤ書を いかに解釈してきたか

The Struggle to Understand Isaiah
七十人訳から現代まで
as Christian Scripture

'The Struggle to Understand Isaiah as Christian Scripture'
Brevard Springs Childs

教会はイザヤ書を
いかに解釈してきたか

七十人訳から現代まで

B.S.チャイルズ〔著〕
田中光、宮寄薫、矢田洋子〔訳〕



日本キリスト教団出版局

B S チャイルズ

田中光 / 宮寄薫 / 矢田洋子〔訳〕

A5判 上製・506頁・本体**6,800**円+税

ISBN978-4-8184-1007-7 C3016

旧約解釈史、それは教会の苦闘の軌跡である。現代までなお続く果てない苦闘の内に、人間の声と神の声は絡み合い、あらゆる思索を超えて旧約聖書そのものが語り出す。二千年にわたるイザヤ書解釈の歴史をたどりつつ、個々の解釈者を、あまり光を当てられてこなかった人物も含めて公平に論評する。

2018年
12月17日
刊行予定

日本の教会と聖書信仰に大きな影響を与える書



大住雄一
(おおすみ・ゆういち)
東京神学大学学長

本書の原題はかなり刺激的で、「イザヤ書を教会の聖書として理解するための闘い」というのである。古代の教父オリゲネスは、七十人訳、ほかのギリシャ語旧約聖書へブライ語聖書を比較対照して、六欄聖書を作った。これはユダヤ教聖書をではなく、キリスト教正典のテキストを確定する労作であった。

我々もキリスト者としてイザヤ書を読んでいるのだ、ということに気づかされる。このような書物は、読むのも骨が折れるが、必ずや日本の教会に、その聖書信仰に大きな影響を与えるものであると考える。チャイルズの孫弟子に当たる田中光の翻訳は正確であり、本格的なチャイルズの正典論を初めて日本に紹介する熱意を感じさせる。宮寄薫と矢田洋子の翻訳の技量も疑いのないところである。

日本キリスト教団出版局

